

第2回 交野市総合教育会議

日 時：平成29年1月20日（金） 午後3時00分～

会 場：本庁3階 第2委員会室

出席者：黒田市長、八木教育長、尾崎教育長職務代理者、亥埜教育委員、森脇教育委員
松下教育次長、北田部長、大湾部長、松川部長、小川部長、良部長、古賀次長、藤
原次長、後藤課長、殿山課長代理、竹田課長代理、久保課長、寺本所長、真鍋課長、
川村課長、南課長、今堀課長、福田課長、北川

黒田市長 こんにちは。本日は交野市総合教育会議の開催をお願いいたしましたところ、ご参集賜り誠にありがとうございます。会議に先立ち、本日1名の傍聴希望がでており、「交野市総合教育会議における傍聴に関する取扱い要領第2条」に規定される定数内でございますので、傍聴いただいておりますことをご報告いたします。

それでは、ただいまより、交野市総合教育会議を開催いたします。

本日の議事につきましては、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条に伴う平成29年度予算に係る意見交換について」及び「その他」となっております。

それでは、早速ですが、本日の1番目の案件「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条に伴う平成29年度予算に係る意見交換について」を議題といたします。

本件は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、いわゆる地方教育行政法第29条に、「地方公共団体の長は、教育に係る歳入歳出予算を編成する際には教育委員会との意見交換を行うこと」との規定があります。

これまでも、教育委員の皆様とは新年度予算に係る意見交換を実施してまいりましたが、総合教育会議が立ち上がったことを受け、これまでの意見交換会を同会議で実施することといたしました。

本日は、この意見交換会ということで、まずは市の予算方針をご説明申し上げ、その後、各教育担当課から主要施策の説明をさせていただきます。

その後、質疑を行い、意見交換を行いたいと考えております。

それでは、まず平成29年度予算に係る方針につきまして、担当課である企画財政部財務課よりご説明申し上げます。

今堀財務課長 企画財政部の今堀でございます、よろしくお願ひ致します。そうしましたら、平成29年度の予算編成方針につきまして説明申し上げます。まず、国の方でございますが、国の平成29年度の予算につきましては、経済財政運営と改革の基本方針2016を踏まえまして、歳出全般に渡り、歳出改革の取り組みを強化するとともに、施策の優先順位を洗い直し、無駄を徹底して排除し、予算の中身を大胆に充填するとしており、また新しい日本のための優先課題推進といたしまして、一億総活躍社会の実現等の重要課題に係る取組を推進するとしております。次に、本市の状況でございますが、平成27年度の決算でございますが、実質収支、黒字の方ですが、3億5764万6千円と昨年度に引き続き黒字となりましたものの、財政健全化法におきます、健全化判断比率その中でも、将来負担比率というものがございまして、こちらの方が159.9%と、他市と比較してもかなり高い数

値になっております。今後におきましても、土地開発公社の健全化、施設の老朽化対策、社会保障経費の増加といった大きな財政事業に対応があります。そのことから、今後も厳しい財政状況が見込まれるところでございます。

このような状況を踏まえまして、平成 29 年度予算につきましては、市長戦略及び地方創生総合戦略に留意いたしまして、市長戦略の政策プランに掲げております 4 つの柱「住みたい、住み続けたいまちづくり」「支え合う健康のまちづくり」「未来へつなぐ環境づくり」「みんなで安全安心なまちづくり」これら 4 つを中心に予算編成を行ってまいりました。なお、教育分野における主な事業でございますが、小学校 6 年までの 35 人以下学級の拡大、小中一貫教育を進めるための支援員の配置、子育ての拠点整備のための第一児童センターの改修、この他昨年度からの継続といたしましては、教育ローンの金利補助、小中学校のトイレの洋式化、英語指導助手の配置・拡充、放課後児童会の早期実施等の事業につきましても、今後、引き続き検討してまいりたいと考えております。説明の方は以上でございます。

黒田市長 予算方針に係る説明はお聞きの次第です。続きまして、教育に係る主要施策につきまして、各担当課より順次ご説明申し上げます。

(資料に基づき、各担当課長より教育予算に係る主要施策について説明)

黒田市長 教育委員会の主要施策における説明をしていただいたところでございます。市の予算編成の基本的な考え方・方針と教育に係る予算の各担当課の現時点での状況について、一通りご説明をいただきました。まず、説明の中で質問・ご不明な点等ございましたらどうぞ。教育委員会の市の予算については、既に教育委員会の方で一定揉んで、今日の説明でも予算要求、そして内示といったような説明もございましたけども、この際には、1 月に入りますと佳境に入りまして、編成状況についての詳しい説明もございました。通常これまでですと、大体予算編成に入る、時期的にいきますと 12 月とか、そういったところで教育委員会の皆さまと市長部局とで意見交換をさせていただいていた、というのがこれまでのタイミングでございましたけども、今回は 1 月のこの日でございますので、担当レベルからですね、要求に対してどうだといったような詳細な説明もございましたけれども、今までのことに対して、特に質問あればどうぞよろしくお願い致します。よろしいでしょうか。ございませんでしょうか。それでは、特に今の説明について、ご不明な点はなかったということでございますので、これからはですね、まさに佳境には入ってきておりますけれども意見交換をさせていただきたいと思っております。どうか重要なご意見を頂けたらと思っております。よろしくお願い致します。

尾崎委員 企画財政部の答申の中に、黒田市長の方が教育に関わって特にこういう点をとということなんですけど、その一番冒頭で小学校六年生までの 35 人以下学級を本市独自として実現していただく、これは大変ありがたいこと。学校現場そのものだけでなく、保護者或いはそれに関わる市民の方々もですね同様に、その点はありがたいと。

もう一つですね、学校全体を見せていただいている或いはお聞かせていただいている、他の部と

連携すると或いは他の部と一緒に予算を考えていきたいということを、財政がひっ迫している中でそういう発想を持ったということですが、財政がひっ迫するというだけではなく、それが学校教育に広く関わっているという意味で、社会に開かれた教育課程ということが中教審で言われておりますけれども、それにつながる発想にもなるという風に思っておりますので、そういった点について、引き続き委員会として協議会として継続していけたらと思います。大卒の感想として、良い点としてお話をさせていただきました。

この点はどうなるのかなということで、お願いをしたいということで申し上げますと、学校管理課のところ、一つは空調関係について、今のところまだ今後もあるということでお話を伺った訳ですけれども、やはり普通教室のみではなく、図書室であるとか、音楽室であるとか、理科室というのは、やはり大事な所であるということで必要になります。先ほど申し上げました、社会に開かれた教室でも図書室につきましては、放課後子ども会の子どもたちも放課後使うということになりましたし、それから、いずれ一般市民の方に開放するといったことも考えますと、エアコンや空調設備というのは、大変有効ではないかなと思います。あと、音楽室、理科室につきましては、学校現場の先生方にとっては非常に切実なところがある。普通教室全部していただいたり或いは校長室もしていただいたりとか、本当に従来よくしていただいていると思うんですけど、更にそういうところを取り組んでいただけたらと思います。続いての話は別途という方がよろしいでしょうか。

黒田市長 この場で結構ですよ。意見交換ですから。この席でいくと、私と、調査については担当者、我々市長部局のものからも体制を整えておりますので、全然結構でございます。

尾崎委員 お言葉に甘えて、どうしても管理課関係が気になるところでございまして、プール改修でありますとか、体育館改修でありますとか、諸々の施設設備の瑕疵によって、何か事故が起こったりとか、子どもたちが被害者になるということになりました場合に、非常に責任が重く問われることになりますので、そういった点については、ご配慮いただいて、予算がひっ迫しているなかでも計上をつけながら、そういうことの責任が果たせるような、ご配慮をいただいたらありがたいなと思っております。私からは以上になります。

黒田市長 総じて、色々評価いただいている部分ですね、35人以下学級については、市長戦略を策定するときにも打ち出しました。これは交野市独自としてですね、先生もご存知のように、文部科学省の方では、まだ少人数学級、35人という根拠は見いだせないといった見方もございますけれども、ただ総じてその人数が何人なのかどうなのかはともかく、今の学校教育現場の中で、様々な課題を抱えて学校の先生方が、しっかりと子どもたちに学力を身につけていただくと、それだけではなくて社会性も含めて、指導力を発揮していただくためには、環境を整えるということが非常に大きな要素になるという風に思っております。それは、なかなか厳しい財政ではありますけれども、市独自の予算を配分してでも、学校の子どもたちにもしっかりと学んで欲しいという思いがあります。

同じ宿題の中で、ハード面これもぜひご配慮いただきたいというお話ございました。こちらの話、今日現在の段階ですと、色々担当レベルでもですね、財政担当そして教育委員会の担当と、まだま

だ今現在のところは調整中ということではありますが、その中で、私としても現時点で、考え方としてまず、通級の指導教室についてはですね、音楽室等の特別教室の中でも、ハンディキャップがある子どもたちが、色々そこで学習する部屋であって、確かに特別教室という位置づけが出来ますけれども、その子たちにとっては大事な学習の場である、これが旭小学校の中で、これまで特別教室という扱いの中で、設置を見送ってこられたということについては、これは元気な子どもでも熱い中で、ハンディキャップがある子どもたちにとっても過酷な状況では、これはよくないだろうという考えを私は持っております。

あと、図書室について、先生仰られているように、エアコンを設置した当時の図書室の位置づけであったり活用と、今とでは大きく変わっていると私も、財務担当者としてですね、倉治小学校の図書室の活用風景を見させていただきました。この間の、パワーアップ事業の一環ですね、図書室を最大限フル活用して、今交野の子どもたちの課題である読解力の向上というものが大きな課題でありますから、やはりそういった、楽しみながら、そして、色んな子どもたちと色んな本の読み聞かせをしてもらいながら、本に接する機会を増やすということは有効な手段であると、そのための大事な図書室のあり方はどうかということについて、私自身も今考えているところではあります。

どのような形で予算という形になるのかについては、今日のところはまだ協議中ということで、お許しを頂きたいですが、考え方としては、そういった考え方を持っているということでございます。

あとは、子どもたちの教育環境のより向上というかより改善ですと、今尾崎先生が仰られたもう一つは、学校は安全な場所でなくてはならない、ということだと思っておりますが、それは確かに一番大事なことだと思いますから、老朽化がどんどん進んでいる中でですね、子どもたちの安全を脅かすような老朽状況というものは、当然放置してはならないというのが基本的な考え方だと思います。一方では、今後老朽化対策について、学校全体をどのようにしていくのか、いわゆるリニューアルも視野に入れた検討というものは、後ほど恐らく、学校規模適正化或いは公共施設総合管理計画についても若干お話させていただく機会もあろうかとも思うんですけども、そういった意味では、タイミング、どの時点でというのは難しいところもありますけども、ただ子どもたちが学校居幾施設で、怪我、事故に見舞われるなんていうことは、まずあってはならないということについては、私も同感でございますので、それについては、出来るだけ配置していきたいという思いがございます。

あと他に何かございませんか。森脇委員どうぞ。

森脇委員 委員をさせていただいて3年になりましたが、3年前に委員をさせていただいた時に、それまでは全然知らなかったのですが、小学校で雨漏りが頻繁に起こると先生方から聞き、それは前から言っているのだけれども中々直らないと、子供の最低限度の環境を整えるということなのではないかという声を先生方から聞いた。どこの市でもそうであるが、人口問題であるとか、市の発展というところは、子育て支援なくしては人口の流入もないというところで、まずそこを考えておられるということは何度もお聞きしているが、分かっているがなかなかできないというのが現実であると。順序を決めて何年かで進めていくと、何年目かでするようにになりましたという報告を聞くのですが、市民感覚では優先順位というものはあるにしても、やはり先ほど尾崎委員がおっしゃ

ったように、色々課題はあるとは思いますが、子供の教育環境の中で雨漏りというのは危険を伴うものであって、応急手当的なものは今後の学校のあり方という話がある中であっても、まだ少し先の話であって応急手当的なものであっても確実にやらなければならないこと、何をおいてもやらなければならないことはいったい何なんだろうと考えたときに、母親感覚で考えたときに「え」ということになろうかと思えます。そういう考え方で言えば、プールもそうかもしれないし、体育館の雨漏りもそうかもしれない。漏電の心配もありますし。なので、優先順位をつけて、2、3年かけてやるようなものではないという気もするのですが、そこは少し理解できないところです。

それから空調関係については、確かに環境を整えるという、最近特に暑さがひどいので最低の我慢できる温度はしてあげないと駄目だと思いますが、やったら冷やす、やらなければ熱帯というのではなく、適正な温度ということを考えていけばいいのではないかと思います。甘やかしにならない環境の整え方というのが必要なのではないかと思います。

先ほどもお話にあった6年生までの35人学級というのは本当にありがたいことだと感謝しております。他の市では中々できていないことなので、とても大きな事であろうと思っています。

黒田市長 雨漏りは今年度順次やっていくことでよかったですね。

事務局 雨漏りにつきましては、学校のリニューアルというところがありますものの、市長戦略でも特に計画をたてて進めていくとしており、発生している校舎のところ、教育委員会に優先順位をつけていただいて、今年度から計画的に3年をかけて進めていくこととしております。また、その状況を見まして、前倒しなども検討しながら進めてまいりたいというところでご理解願いたい。

黒田市長 森脇委員がご指摘のとおり、学び舎として、お金がない中であっても、最低限どういう学び舎を確保すべきなのかということ、私自身も市長として2年を超えた中、森脇委員と思いは同じです。今年度からも学校のトイレの改修にも一部予算をつけたというのも、そういう意味もございます。リニューアルした時にトイレをきれいにしたらいいではないかという考えでは、それでは何年先のはなしになるのか、今のライフスタイルはどうなのか、という中で、全部のトイレというのは残念ながら本市の財政状況から困難ではあるものの、各学校に1か所でも洋式トイレを設置するという努力をするべきだろうということで、今年度から様式化に予算をつけた。屋上の防水についても、建物についても、定期的にメンテナンスをかけているというのが普通の管理だと思うんですけども、例えば車でも法定点検、タイヤ交換なり、オイル交換なり、定期的にやっておかないといくらしい車でもボロボロになってしまう。つどつどメンテナンスを行ってきたというのは、これまでの状況の中ではできていなかったという状況、その中で雨漏りが発生する。雨漏りが発生することは、躯体そのものにも影響を及ぼす可能性もあり、本来であれば長期使える躯体であってもそれすらも浸食されてしまうということもございますことから、しっかりと3か年の中で進めていくというところでご理解いただきたい。

森脇委員 予算とは直接関係はないのですが、空調のことで、学童保育ですごく冷えていることがあった。設置した後も、電気代もかかってくる。経費としても大きい。私は、教育というものは甘

やかしは駄目だと思っています。子供が親が希望するからという理由で、何でも聞くのはよくないし、空調にしても、つけ方、使い方というものも、しっかり考えていくべき。営業している施設ではなく、学校施設なので、子どもをしっかりと鍛えていくということも大切なことと考えますし、夏は暑いものなので、暑すぎるから空調をかける、暑すぎない暑さにするために空調をかけるという考え方もあると常々思っています。そういうところも考えていかなければならないのではないかと思います。トイレについても同じで、ほとんどが洋式になってきている中で、和式でできない子供がいるから、だからつけるのだということ、要望があるからつけるのだということ。これも、できないのであれば教えればいいのか、外に出ればまだまだ和式のトイレはあるし、和式のいいところもあります。だからどうするという考え方もあるが、だったらどうするという考え方もある。

子供は教えれば学べる。すべてを子供に併せる必要はないし、どういう教育をしていくのかということは、大人がしっかりと子供たちにとってどういう教育をしていけばいいのか、真剣に考えていくのが教育だと思うので、その辺りの考察もまたお願いしたいと思います。

事務局 学童保育で余裕教室を使わせていただいているところは学校の基準で、個別であるところは個別でつけているところです。森脇委員のご指摘については、指導員も日々心がけているところですが、活動中については異なる学年の子供たちがエネルギーに活動している中でありますので、指導員が状況に応じて対応させていただいているということもございます。

亥野委員 エアコンについては、年配の者からすれば、何を甘やかしているんだという話にもなるかとは思いますが、昔と違って確かに暑い。私も暑さ寒さには強いほうだが、やはり暑いように思う。予算的に厳しいのであれば、例えば音楽教室なんかは締め切って授業をしないと、最近は近所に騒音について苦情を言われる方もいるようですし。

学校の設備に関しては、三か年で防水工事なんかされるんですが、自分たちの順番が回ってくるまで、漏ったまま待つておくのかということですが、例えば、旭小学校区の星田山手地区の青少年指導員でおられる花山さんなんかだと、ちょっと言ってくればこの地区に大工やペンキ屋なんかのOBもたくさんいてるし、材料代だけ市の方で持ってくれば、修繕するよと言ってくれている。地域は高齢化社会になってきて、そういった技術をもった高齢者の皆さんは交野にたくさんいてると思うし、そういう方に指導してもらって、動くのは若い方が動くし。そういった地域の協働というか、連携とか言われている中で、地域コーディネーターと言われる方がいてはるので、簡単な修繕をしてくれませんかというの、方法としてあるのではないかと思います。私も教育長から財政厳しいんやけど、側溝の掃除なんかをお願いできないかと言われ、二中の生徒とかといっしょにやらしてもうたりと、結局、材料代だけで、人手に関しては地域の力を活用させていただくという方法。そういうことも今後、必要じゃないかと思っている次第です。

黒田市長 恐らく軽微な修繕等について、地域の方々の技術、能力を。

事務局 これからも地域のつながりが強くなっていく中で、お互い助け合いという場面が出てくる。

そうした取組みが学校を中心に進んでいくということはいいことだなと思います。

黒田市長 他にご意見等はございませんか？ないようでございますので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 29 条に伴う平成 29 年度予算に係る意見交換につきましては、今、まさに予算編成過程でございます。最後の詰めをしっかりとしております。今日頂いた意見も踏まえ、冒頭、財務課長よりご説明させていただいた通り、金がないということを出そうということではない。しかしながら事実として現段階として申し上げられるのは、一般会計の方で、積み上げた中で 10 億以上の資金不足になっている。これは、今年度だけでなく、昨年度も基金を取り崩して、予算編成に取り組んでいるところ。慢性的に財源が不足している状況も事実で、先ほど説明あった通り、しっかりと無駄を排除して、大胆に選択と集中の考えを取り入れていくということも必要だと思えます。ご理解いただけたらと思います。

それでは、予算に係る意見交換につきましては、以上で終了いたしたいと思えます。

続きまして、その他案件といたしまして、学校規模適正化室より「学校規模適正化について」これまでの経過及び今後の予定について説明をお願いします。なお、説明をさせていただいた後、質疑を行い、意見交換を行いたいと考えております。

事務局 お手元の方に、学校規模適正化についてということで、A 4 の資料をお配りしております。学校規模適正化につきましては、昨年の第 1 回総合教育会議の中で、概ねのスケジュールにつきまして、ご説明をさせて頂いたところで、その後、学校教育審議会で審議いただきまして、今現在、パブコメを経まして、今年の年明けに中間答申と言う形で基本方針の案が答申されたところです。今月の 26 日に予定されている教育委員会の中で、答申を受けました基本方針につきまして、協議を頂き、成案としたいと考えています。この後、学校規模適正化基本方針に基づきまして、学校規模適正化の基本計画ということで、具体的に再配置とか考えていくこととなります。今回はこれまでの経過と今後の詳細なスケジュールにつきまして、ご説明をさせていただきます。

殿山学校規模適正化室課長代理により資料に基づき説明

黒田市長 説明はお聞きの次第です。今後の適正化の基本方針のスケジュールとそれを踏まえた基本計画について、今後もその流れで取り進めていくということですが、ご質問等はいかがでしょうか。昨年の第 1 回の総合教育会議でもその方向性について、市長部局と教育委員会とで、しっかりと共有しましょうということでした。今現在、学校教育審議会の方で諮問をいただいて、パブリックコメントも終えた。それで、今月末の教育委員会でしっかりとご議論をいただくということですが、質問等がなければ、今後の流れ也でご意見等がありましたら、どうぞ。

我々財政お金を一定預かる立場として、平成 28 年度、学校の配置の基本方針。或いは公共施設全般の見立て、一気にスタートいたしました。何が通常というわけではないんですが、他の自治体によっては、学校のあり方について議論を進める自治体も多くありますが、結果として、私どもは 28 年度から何とか見立てをもとうということで、その中で限られた財源を有効に使っていかうじゃないかと、削減したものを有効に使っていかうじゃないかと。そのためには、見立てが必要だよ

ねと、その中でピッチを上げて、そういった全体計画、その全体計画の多分を占める小学校、中学校。先ほど、森脇委員の方からも、雨漏りするような状況を放置したらダメだよと、そういったことも含めて、取り組んでいるところでございます。これからまだまだ基本方針を経て、全体としての基本計画に落とし込み、そして実施計画という流れでございます。これが、この3年の間に来ると。実際、どのような形で、どのようなレベルで着手するのかということも含めて、この2、3年、まだ具体的にどういった形で、市長だけでなく、教育委員会、市民の皆様も含めて、検討を進めていくべきだと考えています。

森脇委員 学校規模適正化を進めていく中で、いろんな方法があるかと思います。たとえばですけど、長宝寺はものすごく少ない、郡津が多い。そうすると長宝寺に少し編成をし直して、区域を変えれば良いと思うが、いやいやそれは難しいですよと地域の反対があるんですよと言われる。確かに反対はある。私は反対理由が問題。公共の子どもたち全体を考えて、一部の人たちの反対理由でその大きな方向性を左右されるのかということがわからない。子どもの幸せ。そこに一部の人々の反対理由、多くの人になるほどというものであればいいんですが、それがリーダーシップであり、何故ならばの説明責任であるとは思いますが、大半は常識的な人が多いので、そういうものの考え方というのは、行政として振り回されないで、軸をもって、本当に子どものために、地域のために、どうすればいいのかということを考えていただくことが大切だなと思います

黒田市長 ほかにご意見ありませんでしょうか。

森脇委員 校区が変わると、通学の距離が長くなり学校が遠くなることを理由に反対の声が多くなると聞いたが、そのような声が出ているのか。

大湾学校教育部付部長 保護者の方から通学路の安全を気にしているという声をきいています。今は概ね2 km 以内に収まっているが、再配置を考える上では2 km に収まらない場合もあるため、基本方針の中では2 km 以内だが3 km までを許容するというかたちで議論いただいたところです。

森脇委員 遠いことは悪いことなのか、絶対そうとはいえないと思います。毎日通学することで足が鍛えられるなど効果もあると思いますが、通学路の安全については別の問題です。

黒田市長 森脇委員が仰るように、まず子どものためになにが大事なのか。子どもが直接意見をすることができない中、ご家庭の方々との話となることは事実です。通学距離としてどうか、であるとか学区がどうかといった色々なご意見がありますが、基本的な今後の学校の体制、配置、適正規模についての考え方についてしっかり共有させていただいたうえで、その上で議論を深めながら個別の方針に落とし込む過程で、ご家庭の意見も踏まえつつ、よりベターな形にしていくよう考えていかなければならないと思います。たとえて言いますと、昭和30年代ですか、今の体制ができるまでは、交野において小学校は交野小学校と星田小学校、中学校は交野中学校で、星田の方も交野中学校に通っていたといった歴史があります。ところが今の子供たちにとってはどうかといいます

と、通学距離があった方がしっかりと歩くことで体力向上につながるのではないかという考え方もあれば、安全を気になさる方もおられる。その中で、どこが現在妥当な範囲なのかということ、しっかりと声をお聞きしながら進めていくことが、今の時代なのだろうと思っていますので、教育委員としても、正解が無いわけですから、どんどんと意見交換して頂いたらよいと思います。

他のご意見がないようでしたら、この学校規模適正化の方針については、今月また教育委員の皆様には答申を踏まえてしっかりとした中身としていただき、それからまた基本計画へと、教育委員会には作業を進めていただくこととなります。教育委員会の皆様には、是非よろしくおねがいしたいと思います。

これをもって、学校規模適正化についての意見交換についても、この程度にとどめさせていただきたいと思います。本日の次第は以上となりますが、他に何かございますでしょうか。

無いようですので、これをもちまして第二回総合教育会議を終了させていただきたいと思います。今日は本当にありがとうございました。